

山形県応急仮設木造住宅建設ニュース

豪雪仕様の特徴が見える段階に

三井寺書記長も先頭に立って就労



スロープまで屋根が張り出している

9月20～22日に大雨が襲い山形県内の市町村で土砂災害警戒情報と避難指示が発令され、被害状況が危ぶまれましたが、大きな被害にはつながりませんでした。

9月23日の戸沢村、鮭川村の応急仮設木造住宅建設の現場でも作業が進んでいます。建設地の戸沢村、鮭川村は豪雪地帯ということ踏まえて、全木協でこれまで対応してきた仮設団地とは違い、①基礎高が60センチ（従来は30センチ）、②軒の出を長くして仕様となっており、特徴が見て取れる段階にまで作業は進んでいます。

戸沢村では、北東地協の仲間も駆けつけて就労にあたっており、山形県連の三井寺書記長も先頭に立って土日等の合間を縫って就労



床に墨付けをする三井寺書記長

しています。「地元だから何とかしないと考えると、大工なので少しでも助けになれば」「被災者が早く入れるように協力したい」と考え就労を決意しました。